

第9期第2回豊中市文化芸術振興審議会

日 時 令和5年（2023年）7月25日（火）午後3時00分～5時00分
会 場 豊中市役所第一庁舎 4階第一会議室
委 員 委員：橋爪（会長）、青木、上田、江口、後藤、原、山下
欠席：天羽、永田
事務局 上原、林、小林、石橋、谷川、原田（豊中市）
傍聴者 3名

[開会]

事務局○本日は第9期の審議会の第2回目であり、前回昨年度1月以来の開催で、今年度としては1回目の開催となる。

○（事務局の紹介）

1. 第9期第1回審議会の振り返り・今後のスケジュール確認について

事務局○（参考資料1、2に基づき説明）

2. 令和4年度文化芸術推進基本計画に基づく施策実施状況（案）について

事務局○（資料1-1、1-2に基づき説明）

会 長○数値目標の設定はしているが、令和2年度、3年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けた期間であり、タイミングによっても影響の大きさが異なることから、数値だけで判断することは難しい。特別な期間であったと認識してほしい。それを踏まえたうえで、全体を通して、何か意見はあるか。

委 員○こども園アーティスト派遣事業について。今年度から新しい園を対象にすることだが、検証も行った方がいいのでは。どんなことをして、どんなことをしたか、がもう少し公開されてもいいのでは。それを見て、参考にする園も出てくると思う。保育士向けの研修などもいいと思われる。

また、市内学校へのクラブ活動支援について、優秀な成績を収めた学校を対象とした減免があるが、行政としてはそうでない人への支援が大事ではないかと思った。こちらも同様に、振り返りがあっていいと思う。

事務局○こども園アーティスト派遣事業については、レッジョ・エミリアの巡回展が4月に豊中であり、そこで本取組みの紹介・報告をすることが出来たほか、ドキュメンテーションを市ウェブサイトにて公開している。

委 員○「レッジョ・エミリア」に関する知識があれば広報誌で告知を見て行こうと思うだろうが、知らなければ保育士が意識してそこに行くこともない。豊中市ではたくさん評価できる取組みもあるが、伝えていく部分が弱く、私自身豊中市民だが、知らない取組みも多い。広報が停滞している印象があり、周知の取組みをもっと増やしていけたらと思う。

事務局○本事業は3年目になり、2年間実施した栄町こども園から変更し、今年度から新しく野田こども園を対象としている。先生の異動などもあり、取組みを知っている方

は少しずつ増えてきている。続けていくことでも周知を図りたい。

委員○同種の事業について、高松市が力を入れている。これはこどもの育成というだけでなく、芸術士の育成にもなっている。この事業で生活のための収入を得ることが出来れば、他の時間を制作に充てることができる。また、アーティストたちで報告会・展覧会をやるなど、次の活躍の場を作る取組みを行うと成果は見えてくると思う。

事務局○予算は大きく違うが、高松市の事例は先進事例として参考にしている。

委員○取組みが多くて素晴らしいと思うが、どの事業がトップ層を対象にしたもので、どの事業が文化芸術に触れる機会がない人たちなどを含めた多様な人々を対象としているものか、がわかる図があればいいと思った。大学で文芸センターの調査・評価に入らせてもらっており、文化芸術推進基本計画は熟読している。その内容を高槻・大阪・京都などと見比べると、学生たちは豊中が良いと言う。理由は「ひとりひとり」に言及している点。他市町村は「文化を大事に」と表記していることが多いが、豊中市は「人を大事に」しており、特に人権的に危うい人々を大事にしている。このあたりを意識して施策を実施していくと、もっと面白いことになると思う。学校減免の話題にしても、優秀な学校への支援なのか、しんどい子どもたちへの支援なのか。誰の対しての事業なのか、一つ一つの事業をすみ分けるべき。こちらの大学の調査の中でも、習い事をしていない人々は文芸センターにあまり来ていないことがわかっている。行政だからこそできる取組みもあるのではないか。

会長○以前、豊中市の文化政策担当は人権政策と一体であった。文化政策に、人権に関して配慮する感覚が落とし込まれているのはそういった背景が影響していると思われる。大阪府下ではいくつかの都市が人権平和都市宣言をしているが、豊中市は人権擁護という概念をずっと大事に市政を展開している。担当が都市活力部になった今後も、引き続き大事にしてほしい。

委員○文化芸術というのは、広い範囲が含まれると思う。事業の振り返りを聞いて、音楽は多く、美術の取組みもあるが、演劇が抜けているという印象がある。要素として入れてもいいのではないか。また、子どもたちがレベルの高い文化芸術に触れる機会があるのはわかったが、「音楽あふれるまち」という言葉は、私の住んでいる千里ではほとんどの人が知らない。豊中まつりのポスターは目にするが、市の情報を目にする機会が少ない。そこで私もいい方法はないかと考えたが、ギネスに挑戦する、というのはいかがか。音楽のまちなので、使っていない楽器などを持ち寄って、1万人あつまって、演奏家が集まって総勢で合奏出来たら、音楽の街とよなかとしてのイベントになるのではないか。途方もない話ではあるが、このような、多くの人に知れ渡る工夫があってもいいのではないか。みなさん一生懸命やってらっしゃるとは思うが、まだまだ市民には届いていない部分もある。

会長○千里中央と阪急宝塚沿線、北部南部と、それぞれのエリアごとに意識が違う。音楽が地域間のまとまりを作る役割になれていない。千里はニュータウンの中のまとまりが強い。

委員○転勤してこられた方が多く、どうしても地域意識が希薄になりがちな印象はある。

委員○文化芸術全般というよりは音楽、特にクラシック中心、ということが色濃く出てい

る政策だと感じた。クラシックをやっているのでも、豊中の聴衆のレベルが高いことをアピール出来たらいいのではないかと。例えばドイツなどは、聴衆のレベルが高い。聴衆のレベルを上げていくというのも、施策のインパクトとしてはあると思う。一方、美術事業は少し貧弱なイメージがある。美術館があると、そこで幼少期から活動をすることで日常生活に美術館が当たり前にあるような政策ができる。子どものころに行けてないと、大学生くらいになったころに行かない。自分が行くところではないと思ってしまう。豊中に美術館はなかったか。

会 長○かつて美術館構想はあったが、断念した経緯がある。最終的に、文化芸術センターに展示スペースを作ることとなった。美術館を断念した基金をもとに、現在は助成金事業を行っている。近隣では、大阪市内や兵庫の美術館、宝塚市のアートセンターなどがある。

委 員○対話型鑑賞のような形で、子どもたちが行っても美術館で還元され、どうやって楽しむか、を作られるプログラムがあると良いと思う。

委 員○そういった美術館は増えていると思う。

委 員○先ほども話に出た高松や、兵庫県立美術館では、実作品を運び出す出張美術館もやっている。美術展に行ったことがない人でも、作品を目の前にし学芸員からの解説の機会を得ることで、興味をもってもらう取組みがある。

会 長○新しいアイデアは今後に生かすとして、振り返りとしてはこれで以上とする。

3. 令和5年度文化芸術振興助成金の報告について

事務局○本議題については非公開の審査内容が含まれるため、非公開としてよいか。

(委員異議なし)

会 長○本議題については非公開とする。

(傍聴者退室)

事務局○(資料2-1、2-2、2-3、2-4に基づき説明)

会 長○審査された委員から一言お願いしたい。

委 員○件数は例年通りだが、今までよく出してくれていた方は出してくれず、新規の方も少なく、これまで出してくれていた方も少し規模を縮小しているような印象があった。報告会も近い日程であり、昨年採用された方々の話も聞いたが、それぞれの団体が忙しく、事務作業が追い付いていないという声があった。なんとかして書類上のハードルを下げられないか。1/2助成が当たり前のようにになっているが、コロナの時は全額出していた。社会的に重要な活動をされている方々もいるので、ルールを変えていけないかと思う。指定管理者のアートマネジメント講座が成長してきているので、その卒業生が今後助成金を申請するのではないかと期待している。

委 員○実務面を苦手としている人が多い印象。表現者がセルフマネジメントして申請してきている。並走してあげられる人がおらず、委託するほどの予算がない。実務面での講座や、役所がメンターのような形で機能しないと申請書の作成が難しい人が多いかなという印象をうけた。

委 員○もっと応募してほしい。公開のプレゼンテーションを聞きに来る人も少ない。他市

もよく見ているが、他市も応募が少ない。市民はよくわからず、わかっている人しか出せない。実務面が苦手という声が出たが、書類の作成だけがうまくて助成金を取れてしまう人もいる。小さい活動をしている人が1/2助成で背中を押されるかと言われるとそうでもないという現実もある。

会長○コロナ禍で助成金が沢山出すぎてしまったことも影響しているかもしれない。成果が出たのかという調査もされていない。

委員○11企画で、審議会委員が9名なので、一人ひとつずつ見に行くなどしてもいいかもしれない。

委員○審査は書類だけで見るのか。

委員○書類審査の後に面接審査がある。面接審査の際、映像を交えてプレゼンされることもある。

委員○報告会も公開なのだが、見に来ている人はほとんどいない。

委員○自分の発表が終わった後に他の団体を見ていくと参考になると思うし、案内もしているが、ほとんどが自分の発表が終わったら帰ってしまう。

委員○単発の事業を対象にしているように見える。元々は社会課題の解決のための事業を募集していたとのことだが、プロジェクトとしては単発ではなく、最低でも3年ほどかけて実施しなければ結果は出てこない。何のために公演に助成金を出しているのか理解できない。演奏会補助になっているようにしか見えない。

事務局○これまでに長期企画で申請をしてもらった団体もあり、対象にしているが、応募がほとんどなく、市民団体にそこまでの規模の事業を求めることが現実的でない。助成金の趣旨に合致していれば単発の演奏会でも問題ないが、定期定例の演奏会が多いことは課題と考えている。

委員○障害者の方に向けて無料のコンサートを行っており、実際に他市で助成金を受けている。2～3年実施したのちに、書類の軽減があるなど、実績を考慮してもらえるとありがたいと思う。情報発信していくにしても、SNSを活用し演奏動画を掲載するなどをする、若者世代にも見てもらえるのではないかと。豊中市での申請も過去考えたが、書類が難しく、話を聞いてもわからなかったので断念してしまった。

委員○実績のある団体に対しては、実現性のところで配点している。

会長○本助成金は、美術品等購入基金をもとに運用しており、次代の子どもの育成と社会包摂型事業等を支援するという基本に立ち返りながら実施してほしい。応募数が少ないことについては事務局にまた考えてほしいと思う。

委員○書類の簡潔化か、上限額を上げるか。これらのどちらかは是非実施してほしい。

事務局○上限額を変更することについては、不可能ではないと考えているが、当課の他の助成金と受付窓口を一本化する考えもあり、上限金額や作成書類についても包括的な調整が必要である。

会長○文化芸術振興助成金は基金が財源であり、他の助成金とは財源が異なるので、他と組み合わせる必要はないと思う。

委員○1/2助成については、基金財源の方が融通が利くのではないかと思う。

委員○基金とは収入である。使っていくばかりでいいのか。交野市はすべての基金をまと

めて一括で運用している。

事務局○文化芸術振興基金は積極的に使っていく運用をしている。豊中市でも同様に基金の一括運用をしているが、運用をして得られる額は僅かである。

会 長○運用については寄附を募ることも必要と考える。

委 員○実際に豊中とかかわりのある団体のみに行っているか。

委 員○豊中市とかかわりのある団体、豊中市内で実施する事業のみを対象としている。

4. その他

事務局○次回の審議会は11月～12月頃に開催したいと考えている。後日、日程調整する。

○助成金の見直しについては、本日の意見を踏まえて修正案を作成し、会長と調整して決定することとしたい。

○会議録については事務局で作成した案を、後日、委員の皆様を確認後、確定させていただく。会議録は市のホームページで公開する。

[閉会]

(以上)